

学力向上に効果のある取組事例

別府市立別府中央小学校

⑰校内研修などによる授業改善

取組の具体

研究主題

自ら考え、やり抜く子どもの育成
～考え議論する授業の創造～



既存の知識・経験を総動員して根拠のある考えをつくり、互いの見方・考え方を投げかけ、受け止めながら友だちと練り合っていくことで、問題解決を図る学び。＝学力向上

研究（授業改善）の内容

考え、議論する学習が成立するための学習課題の工夫・教師の手立て

○学習課題の工夫

→学習課題の質、課題を引き受けやすくするための手立て

○一人一人が自分の考えを持つための工夫

→見通しを持たせる手立て、掲示物やワークシート、ICTの活用、具体物を使った操作活動

○子どもの意見の関わらせ方

→立場や考えの整理、違いの見せ方（板書の構造化）、話題の焦点化



研究（授業改善）の方法

- 各個人で自分が1年間に研究する教科・単元を決める。
 - ・自分の授業に足りないものを仮定し、目指すべき方向性を持って、具体的な授業改善に取り組んでいく。
- 一人一回以上の公開研究授業を実施する。
 - ・授業者は授業改善のために自分が一番力を入れた「授業の視点」を提示する。
 - ・学年部が全員参加し、授業の記録を取る。
- 当日（できない時は近日中）に参加者で事後研究会を行う。
 - ・「授業の視点」について検証し、有効だったことと課題をまとめ、授業改善に生かす。



子どもが生き生きと学び、力を付けていくために、トライ＆エラー＆トライを粘り強く繰り返していく。公開授業だけでなく、今日の子どもの姿を語り合い、授業の工夫や失敗・成功談を出し合い、具体的な支援や体制を確認し合っていく。